

第 9 0 8 回

定例教育委員会会議録

日 時 令和 5 年 2 月 2 1 日（火） 1 5 : 0 0 ～

場 所 市民学習センター 1 0 2 号室

益田市教育委員会

第 9 0 8 回 教育委員会定例会

招集年月日 令和 5 年 2 月 2 1 日（火） 1 5 : 0 0 ～

招 集 場 所 市民学習センター 1 0 2 号室

議事日程

第 1 会議録の承認について

第 2 教育長報告

第 3 議題

報第2号 「令和4年度島根県学力調査結果」について

第 4 その他

（1）情報提供

「ひとが育つまち益田フォーラム2023」の開催について

（2）その他

出席者

教育委員会

教 育 長	高 市 和 則
教 育 委 員	梅 津 富美子
教 育 委 員	大 庭 隆 志
教 育 委 員	齋 藤 哲 瑯
教 育 委 員	原 田 笑

事務局職員

教 育 部 長	長 嶺 勝 良
ひとづくり推進監	大 畑 伸 幸
教 育 総 務 課 長	志田原 涉
学 校 教 育 課 長	田 原 正 紀
学 校 教 育 課 参 事	松 元 善 生
匹 見 分 室 長	齋 藤 一 臣
美 都 分 室 長	田 中 一 史
教 育 総 務 課 長 補 佐	齋 藤 勝 義
教 育 総 務 課 主 事	三 浦 菜々子

高市教育長 ただいまより第908回益田市教育委員会定例会を開催いたします。
それでは、議事に入らせていただきます。

第1 会議録の承認

高市教育長 会議録の承認につきましては、先ほどご承認いただきました。

第2 教育長報告

高市教育長 次に進みまして、第2の教育長報告でございます。前回の教育委員会からの活動状況です。

前回の定例会から本日までの間の私の主な活動についてです。

1月26日でございます。こちら、大喜庵で文化財放火デーを実施いたしました。当日、雪の降る中でございましたけれども、雪舟保育所の園児さんも参加してくれまして、大喜庵のところで放水を行い、消火器の使い方を実践して共有しました。皆で市の宝である文化財を守っていくというところについて理解を深めたところでございます。

続きまして、翌27日でございます。こちら、第557回益田市臨時議会がございました。こちらにつきましては、補正等を、また審議等を行いました。

同日でございます。鎌手小学校でCOOL CHOICEアンバサダー認定書授与式を行ったところでございます。こちらにつきましては、鎌手小学校の生徒さんたちがアンバサダーとしての活動をされました。地域でのCO2をどのように削減をしていくのかという視点等で子供たちが考えた活動を家庭や地域、市内に広げていくという活動の一環でございます。

続きまして、1月30日でございます。戸田小学校を訪問してまいりました。

続きまして、翌日ですが、吉田小学校を訪問したところでございます。

あとは、2月7日でございます。こちら、教育委員の先生方もオンラインでご参加いただきましたけれども、1人1台端末を活用した地方創生プロジェクト、新しい学びのカタチシンポジウムを開催したところでございます。こちらにつきましては、東京学芸大学の森本先生、またDynaBook株式会社の皆様のご協力をいただきながら進めているICTの活用について学ぶ会でございました。

そういったものを使ってどのように教育を変えていくのか、深い学びにつなげていくのかを考える活動をしていたところです。当日は、3つの実践報告と、あとは森本先生からの講話で進めていったところでございます。なかなかいわゆるニュース等で流れたりするような何かすごく個性的な活動をしているわけではございませんけれども、我が市の状況に応じて非常に地に足がついた活動を各学校において進めていただいているところをご覧になっていただけたかと思えます。あとは、我が市の特徴的なところといたしましては1人1台端末を、学校だけではなく、地域活動、社会教育の領域においても積極的に使っているところが一部の方からすると非常に評価をいただいているところです。益田市におきましては、端末を学校で、地域で、家庭でと、それぞれで往還をしながら使っていくというところを目指しているところというのが一つアピールできて、そういった活用の事例というのをみんなで共有できたい機会だったと考えております。

続きまして、翌8日でございます。真砂小学校を訪問してまいりました。

続きまして、9日でございます。こちら、教育委員の先生方も一緒に、市立歴史文化交流館の内覧をしてきたところでございます。こちらにつきましては、来年度4月1日開館ということで、それに向けて今準備を進めているところでございます。また、開館をされた後、ぜひ先生方もお時間があるときにのぞいていただければと考えております。

あとは、続きまして2月15日でございます。令和4年の3回目の文化財保護審議会を開催いたしました。

続きまして、16日でございます。午前中でございますけれども、小・中校長会において益田市の行政説明等をさせていただきました。

その後でございますけれども、益田市・寧波市友好交流議定書締結30周年記念両市記念品お披露目会を行いました。ちょうど両市が交流の議定書を締結して30周年ということでございます。それに併せまして両市ともに記念品を相互に贈るという活動をしておりまして、益田市からは雪舟の肖像画の日本画を、寧波市からは当時の船ですね、帆船の模型をいただきました。寧波市からの記念品は益田のほうに届きまして、まだこちらからの日本画は先方に送ってはいないので、ちょうどその両方がそろった状態で雪舟の郷記念館において展示をして、市民の皆様にお披露目会をさせていただいたところでございます。

その午後ですけれども、総合教育会議ということで教育委員の先

生方にもご出席をいただきまして、市長と教育に関する意見交換を行ったというところでございます。

私からの活動の報告は以上でございます。

続きまして、令和5年2月にご寄附、ご寄贈いただいたものについてご紹介をさせていただきます。

今月につきましては3件ございました。岸田トミ様が奨学基金のほうを、またお亡くなりになりましたけれども、田原治様から奨学基金のほうにご寄附をいただいております。また、山陰アスコン株式会社益田工場様から図書のご寄贈をいただいたというところでございます。

私からの報告は以上でございます。

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員

=全員了承=

第3 議題

○報第2号 「令和4年度島根県学力調査結果」について

高市教育長

本日は、1件の報告事項となっております。

まず初めに報第2号 「令和4年度島根県学力調査結果」についてから進めさせていただければと思います。

それでは、事務局から説明をお願いいたします。

松元参事

では、よろしくお願いします。

お手元のデータの中に令和4年度島根県学力調査結果（益田市概要）というのがございますでしょうか。それに沿って説明させていただきます。

1 ページ目をご覧ください。表紙の次の1 ページ目をご覧ください。

まず、このお話をする前に前提ですけれども、益田市の子供たちは学力調査を合計3回やっています。1回目が毎年4月に行われます。文部科学省がやる全国学力・学習状況調査です。

2つ目は、益田市独自でやります。益田市定着度調査、これを5月に実施しましたが、既に教育委員会で報告させていただきました。そして、今回報告するのが3つ目の島根県学力調査ということで、これは島根県教育委員会が行うものです。これが12月に行われましたので、これの報告をさせていただきます。

1の調査の実施についてというところで、目的をご覧ください。

目的につきましては、学習指導要領における各教科の目的や内容に照らした学習状況及び学習や生活に関する意識というものの実態

を客観的に把握することを通して、益田市の小・中学校における学習指導上の課題や改善状況というものを明らかにして、今後の施策の充実、それから学校における指導の一層の改善に資するということです。

2番、調査実施日ですが、令和4年12月6日に行いました。

それから、3番目、実施校数、学年、教科、人数ですけども、こちらの表にありますように小学校は5、6年生が、それから中学校は1、2年生が行っています。合計4つの学年です。教科等につきましては、小学校は国語、算数科、それから生活・学習に関する意識調査、そして中学校においては国、数、英の3教科、それから意識調査という形になっております。参加人数はそちらのとおりですけども、生活・学習に関する意識調査については人数がまだ確定していません。後日、確定値が受託業者より各自治体に来ることを聞いておりますので、今後東京書籍より報告があると考えております。

それから、2番目、用語等につきましてはご覧いただければと思います。

それでは、2ページをご覧ください。1ページをまたぎまして2ページをご覧ください。

2ページからが結果の概要であります。おおむね状況を申し上げますと、小学校、国語科、算数科についてはおおむね県平均以上でした。小学校5年生の国語の平均正答率がマイナス1、それ以外の小学校5年生の算数、それから小学校6年の国、算については県平均を上回っているという形になっております。それから、中学校につきましては、国語、数学、英語、3教科で県平均を下回ったという形になっています。

詳細を見ていきますと、全ては申し上げませんが、例えば小学校の国語をご覧いただければと思います。県平均を3ポイント以上上回ったものは丸印が、それから3ポイント以上下回ったものは三角印をつけております。それで、特徴的なところだけ申し上げますと、例えば小学校6年生の書くことというのが8ポイント県平均を大きく上回っておりました。これは具体的には、自分の考えや考えている理由を明確に書いているかどうか、それから予想される反論に対して自分の考えが書けるかどうかというところが大きく上回っているという評価が出ております。

それから、小学校の今度は算数科をご覧ください。算数科は5、6年生ともに県平均を上回っておりますけども、特に小学校6年生では県平均を9ポイント上回っているという結果になっています。その中でも特徴的なことと言いますと、数と計算というところが1

1ポイント県平均より高くなっています。たくさん問題がありますが、1と4分の3の逆数というものはどういう数なのだろうかといった問題や、X掛ける5分の3というのを掛けたときには、最初のXよりも数が大きくなるか否かという問題がありました。それから、小学校6年生の最後の領域の変化と関係をご覧ください。変化と関係も10ポイント大きく上回っているという結果になっております。これにつきましては、例示をしますと、2分の1対3分の1と等しい比は解答の選択肢の中から選ぶ問題がありました。そのような変化に対する関係性を見ているということになっています。

それから、中学校につきましては、申し上げましたように国、数、英語ですね、県平均を下回っているという結果が出ましたが、その中でも特に大きく下回ったところだけ確認させてください。例えば中学校の数学をご覧ください。中学校の数学科が、それぞれ1年がマイナス2、中2がマイナス6となっていますけども、領域で見えますと、中2の数と式というものがマイナス10ポイントとなっています。これは例えば $2(a - 3b) - 4(5a + b)$ を求めましょうとか、 $-a^2 + 2a + 9a^2 - 7a$ というのはどういう形で整理できますかというところ、そういった数と式という範囲が大きく下回っている結果が出ていました。

それから最後、中学校の英語をご覧ください。中学校の英語、それぞれ中1がマイナス3、中2がマイナス6ポイント下回っていますけども、特に中学校2年生の書くことという範囲がマイナス8という数字が出ていました。このマイナス8の中身を見えますと、例えば文の順番、語句の順番というものを正確に並び替えて書くというものや単語を並び替えて正しい文を作るということに困難さがあるようです。

次に、3ページ目から4ページのものがそれぞれ正答度数分布になっています。それぞれはご説明しませんが、概要だけ申し上げますと、3ページ、小学校5、6年生の国、算が出ています。見ていただきますと、県平均正答率を上回る教科というものに至っては、正答率が8割以上という度数で県平均を超えた、県平均を上回っているというところで数字が浮き上がっている結果が見られております。これは折れ線のほうが島根県で、棒グラフのほうが益田市になっています。

それから、特徴を言いますと、4ページをご覧ください。

4ページは、今度は中学校の国、数、英になっています。これは先ほどの小学校とは逆に正答率が低い、例えば40%以下というものを見ていただきますと、その40%以下のところに頂点、いわゆ

る最頻値が出ているという結果が出て、こういったことを含めて学力の底上げというものが求められているということが見てとれます。

それから、次に行きます。

5ページをご覧ください。

5ページからは、(3)各教科の設問と評価というところで、これは県平均を上回った設問については丸印が、県平均正答率よりも5ポイント以上下回ったものは三角ということで書いておりますが、このような結果となっています。たくさんあったので省いたところがありますが、小学校6年生の算数科については一つだけ三角があると思います。小学校6年生の算数科では、拡大図や縮図について理解する、これが三角書いていますけども、この設問以外は全て県平均を上回っているということで、それ以外は省略させていただいています。

それから、今度は意識調査、生活・学習に関する意識調査を説明させていただきます。

8ページになります。

8ページが、2番、生活・学習に関する意識調査になります。これは、肯定群というもののパーセンテージを書いておりますので、例えばとても思うとか、やや思うとか、そういった回答をまとめております。

1番は、自分は先生から認められていると思うというものについて、今年度につきましては、ほぼおおむねどの学年も県平均を上回っているという結果になりました。これは、よく教育に関する協議会や総合教育会議のときにも委員様からご指摘いただいておりますけども、先生のことを信頼しているかどうかや先生から認められているかどうか非常に大事じゃないかというご指摘いただいていると思います。これについては、この意識調査の中でもとりわけほぼ全学年、県平均を上回っているという傾向が見られました。こういうことが、子どもは先生から認められていると思っているという一つの指標ですので、これはぜひ維持していきたいと考えています。

それから、②は平日の家庭学習時間1時間以上というところを掲げています。これは、問題の問い方としましては学校の授業以外にどのくらい学習していますかという聞き方です。ですから、塾を含むものです。これにつきましては、どの学年も県平均を下回っているという結果が出ています。

それから、③番の学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり広げたりすることができていると思うかどうかという質問です。これはおおむね県平均レベルにあると思います。昨

年の令和3年度の市の平均と比べて、子供はもちろん違いますけども、同一学年児の傾向でいいますと、昨年よりも伸びている数字が見られています。以前申し上げたかもしれませんが、コロナ禍においてなかなか学習における友達との距離というのが密接にできないため、話し合い活動というものをあえて制限している学校も見てとれました。ただし、コロナの状況というものを踏まえてだんだんそういったものが、コロナ前とまでは言えないかもしれませんが、戻りつつあるんじゃないかというところが見てとれます。

それから、9ページをご覧ください。

9ページの④番になります。これ、新設項目と書きました。ご存じのように学力調査が時代に応じて変化をしますので、昨年までは例えばDVDを見ていますかとかそういった表現で聞いていましたが、最近ご存じのようにDVDってなかなか子供たちが見る機会が少ないことを含めて、動画視聴やテレビゲームというものに変わっています。ですから、これ、昨年度の結果を載せていません。平日のテレビゲームのプレー4時間以上というものが、どの学年もが県平均を上回っているという結果が出ています。これ、メディアとの接触というのは課題ではあるのですが、このような結果となっています。

あわせて、⑤番目、普段携帯電話やスマートフォンを使ってSNSや動画視聴の時間が4時間以上ということで、タブレットなどの学習時間は除くということでやっております。これについても傾向としましては、先ほどの④番と同じように県平均を上回っているところになります。市のレベルでいうと昨年度の数字と同水準に近いとは思いますが、傾向としましては県平均を上回っているということになっています。

それから最後、⑥番になります。⑥番は、授業でICTを週1回以上使っているかどうかになります。これは、タブレットが配付されたということも含めてコンピューターやタブレットなどのICT機器を授業でどの程度使用しましたかという設問になっております。これにつきましては、まず傾向が2つあります。1つ目は、昨年度の市、令和3年度の市と今年度の市と比べたときに昨年度を上回っております。それから、県の平均値よりも、おおむねですけども、小学校6年生を除いて県の平均値を上回っているという結果が出ています。先ほどタブレット実証授業といいますか、環境について教育長からの説明がありましたけども、こういったタブレットにかかわらずいろいろとICT機器の活用というものが自然と広がってきているということが見てとれるかと思います。

以上、簡単ではありますが、報告とさせていただきます。よろしくをお願いします。

高市教育長

ありがとうございました。

それでは、本件につきましてご質問、コメント等ございましたらお願いいたします。

原田委員

この学力調査の結果を踏まえての考察というか、今後の展望をどのように考えていらっしゃるのか教えていただけますでしょうか。

松元参事

ありがとうございます。

ご質問のとおり、この考察をここにはつけておりません。対応としましては、実は以前お示した全国学力・学習状況調査と定着度調査と重なる部分があります。私たちとしましては、まずこの学力を伸ばしていくためには、やっぱり授業改善、授業の向上というものが欠かせないと考えています。ですから、これは2月ということ踏まえて今年度できることは限られているかもしれませんが、引き続きその授業の向上というものについて具体的な施策を持ちたいと考えております。事例になりますけども、先月2月15日に小野中学校におきまして国語科の授業を市内の先生方が見られて協議をするという機会を設けておりました。これは去年コロナ禍で中止になったもので、今回は無事開催することができました。益田市定着度調査で子供たちを伸ばした先生から学ぶという研修会ですけども、具体的に学力を伸ばした先生って授業をどういう工夫をしているのか、それからこういった点に留意して授業を組み立てているのかなどについて、そういう授業を公開していただいて先生の説明を受けて皆さんで協議をしたところです。やはりこのような具体的に授業を見合う、授業を通して子供たちへの指導を考える機会をどれだけ増やせるかと考えています。ですから、先ほどの定着度調査というのは県が行っているものですけども、そういった計画を含めて市全体でもそのような企画をつくる、それから各学校においてもつくっていただくという動きを進めていきたいと考えておるところです。

それから最後、2つ目になりますが、今年度末を目安にいわゆる授業チェック益田市版、授業チェックリストというものを作成しているところです。つまり、授業力をつけるためにこういった視点が必要でないかというところをまとめたチェックリストというのを作成しているところです。それを含めて来年度からの対応になりますけども、しっかり各学校に伝えて、それらを授業に生かしていただく、そういう流れをつくっていききたいと考えているところです。

以上であります。

齋藤委員

中学校は3教科というのは全体的に悪いですね。これ、考えら

れる要因は何があると思うのですか。

松元参事

これは、統計的にどれだけ相関があるかというところになりますけども、今考えられることとしたら2つあると思っています。先ほどの原田委員とのことと重なりますが、中学校における授業の向上がまだ十分ではないということです。やはり学習というものが一番子供たちの生活時間の中で多く時間を過ごしているところです。先ほどの授業力の向上の例を申し上げますと、ある学校でコロナ禍ということもあり、他の学校へ出かけたり、あるいは校内で別の先生の授業を見るということがなかなか難しいということ聞いています。小学校というのは比較的1人の教師がほぼ全教科を教えるという仕組みが出来上がっていますので、横のつながりというのを非常に持ちやすいようです。ですが、中学校というのは教科担任制です。ですから、その教科の専門職になるためにはやっぱりその専門性を持った人間が集まって研修を積む場が必要じゃないかと考えています。ですから、先ほどとちょっとかぶりますが、そういうような機会をまず備えることを考えています。

それから、2つ目の理由が、これ、家庭学習のところでも出てきますけども、小・中の接続というものです。その接続の中にはいろいろありますが、例えば授業の進め方のような授業の中での接続です。それから、授業、家庭学習を含めた教育指導、学習に対する指導という面の接続。このような接続が課題であると考えています。家庭学習につきましては、その課題があるということで今年一年もやってきていますけども、まだ大きな成果が出ていないというところがありますので、おっしゃったように引き続き検証及び取組が必要かと考えています。

齋藤委員

想定の域を出ないのですが、中学校においては教師と生徒の関係が難しい年齢になってくることが関係しているのではないかと思います。学校の規模や教え方の問題もあるのかもしれませんが、先生と子供たちの信頼関係や学校の教育環境など様々な要因がこの中にあると思います。

しかしやはり気になるのは中学校の全部の教科でほとんどがマイナスになっているという点です。今後どのような対策を採っていくか、学校全体で取り組んでいかななくてはならない問題ではないでしょうか。

松元参事

ご指摘のとおりだと思います。今、齋藤委員さんがおっしゃった教師と生徒の関係については、私たちも今回手持ち資料の範囲ではありますが出てくると思います。例えば先ほどの意識調査の中でも出てきましたけども、先生から認められているかどうかという設問が

ありました。8 ページの一番上ですけども、これについては私もどうかと注目して見ていましたが、県平均を上回るという結果が出ています。ちなみに、学校適応感尺度、集団にどれだけ適応しているかを調べるためのアセスという調査を年2回やっています。そのアセスの中にいろんな調査の質問肢があるのですが、その中で例えば先生は私のことを気にしてくれているかどうか、自分のことを気にしてくれているかどうかという質問肢があります。これを見たところ、数字の上では小学校の平均が95%、それから中学校の平均が94%ありました。ですから、計り得る調査の項目というのは限られているとは思いますが、この見えている調査の1つずつを見たときには、教師と生徒の関係、決定的に悪いところを数字ではなかなか見えにくいところと感じています。小学校の場合、先生とは多分担任のことになると思うのですけども、中学校の場合は教科が替わりますので、いろんな先生を想像しています。そういったところの影響もあるのかもしれないと感じています。

大庭委員

このたびの報告をみていると、確かに小学校はほぼ県並みで、特に6年生の算数は少し突出している部分がありますけど、中学校は全て県平均を下回る状態です。特に中学2年生が顕著に低いなと思いますながら見させてもらいました。生活・学習に関する意識調査ですが、それを見たときに、やはりスマホやテレビゲーム等に占有される時間が長いことによる家庭学習が不十分だということが、影響しているのではないかと思います。それから先ほどから出ていますけども、いわゆる自己肯定感という部分も4つの学年を比べたときに一番低いし、やはり6年生が一番高いですね。やっぱり僅かな差かもしれないけども、そういったものが積み積み学習に大きな影響を与えているということが推察されるのではないかと思います。やはり教師が普段の授業の中で生徒に対してどういう言葉がけをしているのかを、特に中学校の教師の姿を想像するのですけども、やはり小学校に比べて年齢も上ですから対応も小学校ほど懇切丁寧でないかもしれませんが、やはり学習が苦手な子については日々の授業の中で細めに声かけをすることがすごく大事じゃないかと思います。教育の中でよく言うピグマリオン効果という言葉がありますが、褒めて自信を持たせてやっていると、想像以上に力を出してくると思います。ですから、褒めるということを基本にして、しっかり激励して、いいところを見つけてやって、本人に自信を持たせる、それをすることが大事じゃないかと思いますね。有名な山本五十六の言葉がありますよね。やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、褒めてやらねば人は動かじ。昔も今も一緒だと思います。

ね。しっかり自信を持たせて、相手の心をいい気持ちにさせて、しっかり力を発揮させる、そういう姿勢が教師の授業において出てくると非常にいいのではないかと思います。

それからあわせまして、先ほど6年生、非常に特に算数がいいと言いましたが、先般新聞が、これは山陰中央新報ですけども、2月16日の木曜日の新聞です。ご覧になられた方がいらっしゃると思いますけども、これは島根県の県の学力と、それから全国平均、これは推定値だそうですけれども、いわゆる早期実施校の結果や過去の実績を基に問題を作成した業者が推定したそういう数値があるのだそうです。それを基にしてやっていますけども、そうすると島根県の小学校6年生の算数が10.4ポイント全国よりも低いんだそうです。そうしますとご覧いただきたいと思いますけども、本日出ております資料でいきますと小学校6年生の算数ですけども、益田市は70で島根県は61、確かに9ポイント上回っていますけども、島根県の61は、全国よりも10.4ポイント低いということです。そうすると全国は71.4になるということです。そうすると、島根県の益田市は9ポイント上回っているのですけども、全国と比べたらマイナス1.4ポイント低いことになる。ですから、単純に島根県より9ポイント高いといって喜んではいけないと思います。ですから、島根県の中だけで見るのではなくて、やっぱり全国で見たときにどうかということも益田市として考えていくのは重要だと思いました。この新聞からそういうことに気づきましたので、一言述べさせていただきます。

以上です。

松元参事

ありがとうございます。

全てにお答えできるかどうかは分かりませんが、順番に申し上げて、いわゆるメディア接触、スマホやゲームというものの時間が多くて、それに費やされることで家庭学習が十分ではないのではないかという点。全国学力調査もそうですけど、スマホというメディア接触については学力に何らかの相関があるのではないかというところで、全国学力・学習状況調査の対応と重なるところがありますけども、2月には広報「ますだ」でメディア接触の現実というものをまず市民の皆さんにお知らせしました。それを受けて年度末までではありますけども、また春休み等も含めてメディア接触に対する啓発チラシ、パンフレットというものを配る予定です。昨年度、事業評価で実は上げていたのですが、各学校においても保護者さんと協力して、保護者と連動したメディアに対する対応というのをやっておられはしますが、それを含めてなかなか効果がまだ出ていないと

というのが現実ですので、対応を考えているところです。

それから、自己肯定感というものが必要で、生徒に声かけが非常に影響を及ぼしているのではないかとということがありました。先ほど説明しようと思ったのですが、抜かしておりましたが、各教科の正答率があります。先ほど先生から認められているという項、認められていると感じているということと学力と関係があるのかを見たところ、明確な相関が実は見られませんでした。認めれば認められるほど学力が高くなっている結果にはなりませんでしたが、一つだけ、今回の調査だけに限って言うと、小学校5年生は比較的0.17という数字が出ていまして国語、算数ともに弱い相関がみられました。中学校になれば0.1を下回るところもあって、なかなか認められている子が必ずしも平均正答率が高いわけではないということは見えてきました。それから、学校が好きかどうかというところで以前からご指摘をいただいています、学校が好きかどうか、学力に影響があるのかを見たときに、例えば小学校5年、6年生については0.2の弱い相関が見られていました。6年の算数科は低いのですが、それ以外の5年、6年については何らかの弱い相関があるということで、小学校に関しては学校が好きということが学力に影響がありそうということが見えてきます。ですから、中学校になれば逆にそれがあまり関係ありません。中学校2年生に関しては、学校が好きというところと教科の平均正答率が0.04とか0.07ということで関係が薄い結果が出ていますので、これはなぜなのかということになるかもしれません。ですから、そういったことも含めていろいろご指摘いただいたことは喫緊の課題ではありますので、また来年度に向けて生かしていきたいと考えております。

以上です。

梅津委員

国語の教科のところで中1と中2の部分です。この中で第1学年までに学習した漢字を正しく読んでいるのと小学校で学習した漢字を正しく書いているという意見がマイナス5ポイントです。小学校6年生では、この2つは県の平均を上回っている状況の中でちょっと不思議な現象だなと思うのですが。

もう一つ、自分は先生から認められていると思うというところですが、県平均よりそれはほぼ上回っているのですけれども、先生との信頼関係は成績にじかに反映しなくても、それでもやる気も変わってくるのではないかと思いますときに、とても大切なことだと思います。質問の中で反対に認められていないと思うのはどんなところなのかなという、そこが知りたいような気がしますし、それが分

かるとまた改善点につながっていくのではないかなと思いました。

松元参事

ありがとうございます。

先ほどご指摘いただきました国語の漢字に関しては、まさにご指摘のとおりだと思います。私たちのところでは定着という言葉があります。学習した後に自分のものになるかどうかというもの。その定着というところに課題があった可能性も考えられます。

それから一方で、もう一ついただいた、先生から認められていないと感じる場合はどういう時なのだろうということですが、質問肢からはなかなかそのことが見てとれないのですけども、先ほどご指摘いただいているように教師との関係はやはり影響がないはずがないというのは私たちも経験則で思っているところです。授業の中での声かけ、または生活の中での声かけというもので教職員が指導力を含めた対応を磨いていかないといけないと考えています。事例にはなるのですが、先ほど話した益田市定着度調査を使った伸ばした先生からの授業をこの中学校でやったと申し上げましたけれども、その中でいわゆる参加者から出たその先生のよさというものを挙げましたら、やはり生徒たちをしっかりと評価していることが挙げられておりました。例えば、発言した子であったりできた子に理解できたねとか、またはできない子に対しては声かけをしているというところですか。ですから、そういったことを含めて具体的な場面での指導、またそれを教師自身も見つけなきゃいけないというところが、授業を通して学べることを多く感じましたので、繰り返しになりますが、そういう機会をまたつくっていくことを考えているところです。

以上です。

梅津委員

ありがとうございます。

原田委員

先ほど梅津委員からもありましたように小学校5、6年生では平均を上回っている方が多いのに対して、中学生では下回っている場合も多いということで、この結果が出ている中学校1、2年生が小学校5、6年生だったときのデータというのはありますでしょうか。この学年が今の段階になってたまたま悪くなったのか、それとも5、6年生のときからずっと低い状態が続いていて、現在もそういう実態なのか。ちょっと比較できればありがたいのですが。

松元参事

ありがとうございます。

結論を申し上げたときには、例えば今年度、それから昨年度送られたときには今の中1、昨年度は小学校6年生だった子が例えば国語科はマイナス2という結果でした。それから、算数がプラス5という結果でした。ですから、国語科マイナスというのはありました

けれども、大きく下回ってはいないと。算数科はご存じのとおりプラス、上回っていたところで、それから単純に考えたら5からマイナス2になっているので、10ポイントぐらい下がった。ですから、その辺がやっぱりなぜなのかという疑問はあります。あと傾向としましては、やはりここ数年で申し上げたときには、おおむね小学校でいったら県平均もしくは県平均を上回る、これ教科によるのですが、ほぼ同じぐらいだと考えています。それから、中学校になったら下がるのが顕著になって、傾向は変わっていません。

原田委員

そのこのところの要因とか原因というのは、どのように今のところお考えなのでしょうか。

松元参事

やっぱり定着ということがあるにしても、そこで一旦はできていたものが中学校も同じ12月の1年後にはこういった結果になっているというところを踏まえると、私たちとしては中1で教えるべき内容、学ぶべき内容というものがやっぱり定着を含めて授業の中で子供たちの身につけていないことが考えられると思います。授業が分かりますか、理解できますかという設問はありますけれども、そういったところが今回で言いますと国語の授業を理解しているかどうかと質問があるのですけれども、結果としては、実はその点は今年度に関して言うと県のほうが市よりもすごく頑張っています。しかし、その差というものが中学校になったときにより開いていくという結果が見られます。つまり理解しているところが中学校になれば下がっていることがかんけいしているのではないかと思います。

原田委員

ありがとうございました。

齋藤委員

一つ言えることは、子供たちが元気にやっていってほしいという点です。人から認められてもらうこと、自分で考えて自分から行動すると元気が出てきます。やったことが認められれば嬉しくなってまたやる気が起きてきます。いわゆるプラスのスパイラルをどのようにつくっていくかが大切です。

それと、学校では子供たちに分かる授業になるよう工夫をお願いしたいところです。先ほど話に出ましたように、中学校は教科担任ですから、一人一人の行動を十分に把握するというのは難しいとは思いますが。少し古いデータになりますが、お手元に配布されている益田市内の小中学生調査を参考にその様子を見てみたいと思います。この傾向は今でも変わらないと思います。

子供たちに「先生に何を望むか」という質問ですが、一番多かったのが「分かりやすい授業をして欲しい」で、小学生の約52%、中学生では78%でした。同様の調査を千葉県内の二つの小・中学校で行いましたが、関連項目を取り上げて起きましたが、同様な傾

向が見られます。

千葉県柏市の平成22年調査では、「わかる授業をして欲しい」が中学生の55.3%、「楽しい授業をして欲しい」が46%でした。

千葉県の鎌ヶ谷市の調査で「学校に来たくない理由」を挙げてもらうと、約2割が「授業が分からないから行きたくない」答えているのです。

このように見てくると、時間はかかるかもしれませんが、学校では、子供たちを認めてやって子供たちのやる気を起こさせるような雰囲気づくりが大事になってきますので、成績の向上対策も含めて総合的に考えていく必要があるのではないかと思います。

松元参事
高市教育長

はい、ありがとうございます。

あれですね。学習時間以外の多くの質問項目には実は4つのレベルで評価をしていて、とてもそう、まあそう、まあ違う、全く違うということなので、よくある5つのレベルでやる場合には大体真ん中がどちらでもないというちょっと中途半端なやつがあるのですが、全く今回はどちらでもないというのが基本的に存在せずに白黒をつけるという質問の問い方での肯定的な割合であるというところが一つあるのかなと考えています。ただ、たしか授業が分かるというのは小学生、中学生もあれだけ、7割から8割ぐらひは子供たちが授業は分かるというような回答だったと思いますが、正確なところだとどうでしたか。

松元参事

ありがとうございます。

紹介させていただきますと、国語、算数というものが分かるかどうかという問いに対して、国語に関しては、小学校5年が82.8%、6年が86.3%、中1が77%、中2が76%で大方75%以上は分かるとは答えています。算数科、数学についても分かるかどうかという問いに対しては、5年生が75%、6年生が86%、中1が76%、中2が約74%ということで、先ほどとかぶりますが、大方75%以上は分かるとは答えています。最後、英語科については分かるという答えは少し下がりますが、中1に関しては62.3%、中2が57.5%という、これは先ほどの他の教科に比べればちょっと10%程度下がりますが、でも分かると答えた子が3割とか2割とかというレベルではないですね。そういう結果でした、参考までに。

高市教育長

非常に先ほども原田委員からもしご指摘いただいた小学生の段階では県平均、場合によっては全国前後ぐらいになっているのが、中学生になるともう去年までよかった子がいきなり中学生になって下がり、中学生も大体学年が上がるほど成績が下がっていくという傾向

が、年度が変わっても同じ傾向がずっと続いています。これが実は益田市の実態としてあります。先ほど授業が分かるというところ、中学校と小学校で大きく変わるわけではありません。これはあくまでも子供が、授業が分かるという主観的な評価ではあるのですけれども、その一方で8割程度が、授業が分かると言っている、じゃあテストをやると実はそれとのかかなりの乖離が出ている現状があり、あとは特にその学習時間に関して言うと、小学生は平均的な学習になっているのですけれども、中学校になると途端に学習時間が減っていく傾向もあります。これも学年が上がるほど、中1よりも中2、中2よりも中3になればなるほど学習時間がどんどん短くなっていくというのも大体例年の傾向としては見られます。一方で、教員から認められるというところも多少の前後はあるにしても、中学校になって途端に下がるというほどの影響も見えていません。そういった状況で本来きちんと分析をすべき教育委員会側が、明確な要因が見つけられていないということ自体、非常に何とも申し上げられない部分ではあるのですが、我々としても小学校段階と中学校段階の大きなギャップというのがどこで生まれているのか考えていく必要があると思います。一方で、学習自体は積み上げで学習をしているので、もしかすると中学校で転ぶというかつまずくというのは、当然下の学年での学習が実はきちんと定着できていないのかもしれないとも考えられます。ただ、テスト上、表面上はよく見えているけれども、本当の意味での理解、習得ができていないかもしれないと考えられます。でも、その原因もよくわかっていません。そういった中で教育委員会としても引き続きその原因の分析を進めるとともに、齋藤委員ご指摘のようにいわゆる非認知的な側面や、自己有用感、自己肯定感っていうのをどう高めていくのか、そういったところを全体的に見直していかないと子どもたちの学力、広い意味での学力の向上というのは求めにくいところがあるのかなと現状では考えています。

齋藤委員

最近、市内の公園などで遊んでいる子供たち十数人に聞いてみたところ、8割ぐらいが「面白くない」と答え、「面白くない理由」として、「とにかく先生はよく怒るし、えこひいきがすごい」と答え、「自分の子どもにあんなに怒るのだろうか」と逆に質問されてきました。

今一番好きなのはサッカーで、「サッカーなら一生懸命できるけど、学校の授業は面白くない。面白くないからわからない」。「あの先生嫌いだから」と言います。彼らの言葉のすべて信じるものではありませんが、子供たちの本音を聞いた気がします。

高市教育長
松元参事
高市教育長

教科間の相関に関しては事務局から何か言えることはありますか。
教科間ですか。手持ちが今ありません。

大体教科間の相関についてですけれども、今回の調査について私も細かいデータは持っていないのですが、私の記憶からすると大体相関係数が0.6から0.7です。国語と数学や、国語と英語、英語と数学、国語と算数もそうですけれども、今回のテストに限られず、ここ数年の調査においても大体教科間の成績の相関というのが大体0.6から0.7という相関係数が出ていたので、いわゆる統計上でいうとかなり強い相関が見えているというのが実態です。裏返して言うと、国語ができる子は数学、英語もできるけど、逆という形での相関が大体基本になっているということです。だから、特定の教科だけがすごく、ゼロではないにしても全体的な傾向としては大体相関の係数が0.6から0.7ぐらいの範囲で収まっていることが益田市の傾向になっています。

齋藤委員

ここには3教科の成績だけ上がってきていますが、これらに関する調査はほかにありますか。

松元参事

おおむねここに上げさせていただいている生活・学習に対する意識調査というものは全国学力調査を含めてなるべく同じものを上げているのですけれども、やはり傾向としたら同じ傾向が出ているというのが一つの結果であります。例えば平日の家庭学習時間というもの、例えば県や全国のどこの学校であったとしても大体同じような傾向になっています。逆に言えば、同じような集計が出ているのは、先ほど教育長からも家庭学習のところがありませんでしたが、いわゆる家庭学習というものを私たちも授業としっかりつなげていこうということをやっておりますけれども、それについてはいわゆる統計上の明確な相関は見られないということでもあります。私たちとしてはそういったいろんな調査を3回やっております、いろいろ仮説を持ってそのときにこういった結果を見ているんですけども、先ほど申し上げた家庭学習というものに関してもなかなか相関は見られないという状態です。メディア接触についても同じ結果が出ています。

齋藤委員

例えば、家庭教師についたり、塾に行っている子供との比較はできますか。

松元参事

その分析はできておりません。

齋藤委員

今、教育長の話にもあったように、子供たちの約3割が「わかる授業を教えてくれ」と言っていますので、この子供たちの成績を上げる方法を考えていかないと、平均値は上がってこないのではないのでしょうか

松元参事

先ほどお話しになった学習塾へ行っているかどうかというところ

で、サンプルでは例えば1割ぐらい、かなりサンプル数が少ない調査であります。

齋藤委員
松元参事

かなり少ないですね。

学年数が上がって中学校のほうが少し高くなっているのですが、そういったところ含めて、統計的な信頼性がある数字が出るかというところが、なかなか我が市としては導きし切れないという現状があります。ただ、先ほどもおっしゃっていただいた塾に行っている子供が、例えば国語、算数と平均するとどれぐらい関係があるかというところに関しては、ここに出ている数字でいうとやはり統計的な相関の信頼がもてるような数字は見られないということが出ています。

齋藤委員

例えば、塾に行っている子供の成績が良いとなれば、教え方の問題とか、教育環境などにも影響するのかなと思った次第です。

松元参事

因果関係ではなく関係があるかというレベルでいうと、低い数字にはなっております。

齋藤委員

それから、今、島根大学と松江高等専門学校の協力で、算数・数学パワーアップ教室を行っていますが、将来理系に進みたいというようなステップアップを視野に入れた方法も考えられるのではないのでしょうか。これだけに特化することに当然問題もあるでしょうが。

大庭委員

各教科の説明と評価という表があって、そこで5年生はないのですけども、小学校6年生のほうで今言ったように6学年に配当されている漢字を正しく読んでいるとか、第5学年に配当されている漢字を正しく書いているという、いわゆる基本中の基本のところですよ。これがいわゆるいい評価となっていますけど、これを中学校で見てみると中学1年生の場合ですけども、第1学年までに学習した漢字を正しく読んでいるとか、小学校で学習した漢字を正しく書いている、これについては課題になっていて、同じように中学2年生もやっぱり同じ項目がやはり三角になっているわけですね。本当に基本中の基本で最低限のことといえますか、そのところができるということがやはり底上げにもなりますし、それから多分こういったものにはやはり時間かけないとなかなか、繰り返し書いて覚えるとか、そういった練習をしなければなかなかできない部分でもあると思います。そういったところにやはり家庭学習の時間が実際にあれだけ少ないと、なかなかそれに回せないという感じを受けております。ですから、本当に今言ったように基本中の基本、ここは、これだけはこの部分はすごく大事にしてもらいたいなと感じました。

それからもう一点目ですけども、これは最後の9ページの一番下

のところなのですけども、授業でICTを週1回以上使っているという部分で、中1、中2のところを見ていただきたいと思いますけども、特に中1のところをR3市というところの31%とありますよね。これは今の中学2年生だと思うのですよ。その中学2年生、去年は31だったけども、今年は、本年度は78に一気に上がっています。すごく増えていますね。こういったものは授業にどのように影響を与えているのかをすごく感じています。実際に中学2年生に対してどのようなICTの活用の仕方をしているのかということをも今一度、今回の調査もありましたので、少し学校へも聞くことも訪問時には必要かなと感じました。

以上です。

松元参事

ご指摘ありがとうございます。

2ついただきましたけど、読み書き、それから定着というのはおっしゃったように基本の部分です。なかなか定着というのが見えてないのが課題です。これはもちろん共有したいと思います。

それから、2つ目にいただいたタブレットの活用については、昨年度は1人1台端末が導入されて実質1年目というところで、授業の活用なんかも例えばWi-Fiの課題や使いづらさもありましたけども、それは解消されて、今年度1年間というのはしっかり活用できたということが一つの成果になっていると思います。ですから、私たちも、学校訪問指導としては1人1台端末を使って授業を必ず公開することっていうことをしばっておりまして、つまり義務化しておりまして、使うことが目的ではないのですが、使って授業の狙いを達成するためにどう効果的に活用するかというところで、それを今年一年間本当にやってきました。まだ道半ばではありますので、おっしゃっていただいたことを含めて、活用を通して学力につながるように指導していきたいと思います。

大庭委員

環境の部分で先ほど松元室長さんがおっしゃったように分かりますけども、例えば今の小5の部分でいきますと62が小6になって70になっていますよね。それから、小6のところのR3、これ今の中1だと思うのですけど、それがR4でも72という比較的变化は緩いじゃないですか。ところが、今の中2の部分だけはすごく激しいので、これがどのような実態なのかなということをも本当に参考までに何か問題を解く鍵にもなるのではないかと思いますので、学校の訪問時に少し聞いていただけたら子供の様子もよく見えてくるのではないかと思いますので、一言申し上げさせていただきました。

原田委員

先ほど先生たちが見学に行かれる機会があるとおっしゃっていましたが、市内だけじゃなくて、例えば福井県とか県外の指導につ

いて学習したりする機会というのは、先生にあるのでしょうか。

松元参事

お答えします。

益田市教育委員会として例えば市外に出かけて行って授業を見てもらうという施策というものは無いのですが、恐らく例えば各学校において、例えば数学、算数を研究している学校がそれを重点教科として、数学を高めるために派遣してというところは各学校で行われている事例はあります。これは総合教育会議のときの発言と重なるのですが、以前はそういった、以前ご指摘いただいたように著名な先生といいますか、授業力のある先生、例えば筑波大学附属小学校の先生をお呼びすることがありました。そういった方を呼んで師範授業をした時期もありました。ですから、それではなく、今はコロナというものがあってなかなか校外授業も少なくって、来ることを拒まれる例もありました。これから活発化すると思います。私たちとしては、先ほどの益田市の定着度調査に関して言うと伸ばした身近な先生から学ぶことで現場の利益があるのではないかと考えています。

もちろん著名な先生からお話を聞くのもいいのですが、身近にすごい先生もいらっしゃるのも含めてそういった方も人材育成を含めて業務でやっているところです。

原田委員

圧倒的に教育現場のマンパワーが不足しているというのも根本的な原因にあるのではないかと思います。先生方も勉強に行きたいけれども、業務に追われて行けない。助けてほしいけど、代わりにやってくれる人がいない。そこを解決しないといけないという中で、先生だけでケアするというのがすごく難しくなっているからこそ、新しいシステムや本当に地域の大人を活用して巻き込んで教えていくという仕組みをつくっていかないと、今のままでは一向に解決しないのではないかなという心配がありまして、ここまでの数字を見ていると本当に切実な問題だと感じます。何か一人の大人としてご協力ができることがあれば協力していきたいなと思いますし、新しい枠組み、学習を支える枠組みを本当に本気で組立ていかないと危機的な状況じゃないかと感じました。

松元参事

即答はできませんが、それも含めて検討させていただきます。

以上です。

高市教育長

それぞれの学校での教員の指導力については、我が市においても指導主事であったりとか、あとは県の教育事務所にも指導主事という先生方がいらっちゃって、いわゆる指導主事というのは教科指導であったり県内においても非常に優れた指導力のある者が任命をされているという形で、そういった先生方が、先ほど学校訪問という

ことは度々出ておりましたが、そういった者が学校に実際に行って、場合によっては模擬授業をしたり、場合によっては教員が実際授業をしているのを見て、改善点を見つけ指導をしているというところもありますので、いわゆる筑波大附属の教員を呼んで勉強することだけが指導力向上ではなくて、日常的にそういった県内にいる非常に優秀な教員の指導も併せてやっているというところです。ただ、原田委員がおっしゃるとおり、なかなか機会も限られているという部分もありますので、そういったところ、校内研修などを市としてもサポートをしていく必要があると思っている次第です。

齋藤委員 ちょっと単純な質問をさせてください。

資料の 6 ページ、7 ページの中学校 2 年生のところが県の平均と 5 ポイント以上マイナスで、数学の 2 だけがマル、あと全部が黒の三角になっています。これでは授業がわからなくなるのは当然ではないでしょうか。

高市教育長 実際、県の平均よりも全体的にマイナス 3 なりマイナス 4 という状況ではあるので、低いのを抽出するとやはりそれぐらいの数になるというのが我が市の中学生の学力の実態であると思います。

齋藤委員 この箇条書にある課題を解決していく手立てを考える必要もありますが、特に基本がわからないと次がわからなくなるので、教科全体をみて、どこに問題があるのか、どうしたらよいのかなど、子供たちを置き去りにしない対策をどうするか難しい問題ですが、学校全体で取り組んで行く必要性を感じているところです。

高市教育長 ありがとうございます。

それでは、この件についてよろしいでしょうか。

教育委員 =全員了承=

高市教育長 それでは、以上をもちまして定例会を終わります。

次回は 3 月 28 日に定例教育委員会を開催いたします。よろしくお願いいたします。それでは以上で定例教育委員会を終了いたします。ありがとうございました。

=終了時間 16 時 30 分=